

F u - Z i n

第36号
平成26年4月発行



報告

第31回NPO博多の風フォーラム

「ふつうに生きる」

松本龍 元環境大臣



報告 第13回 楽文コンテスト表彰式

告知 第13回 博多のおいしゃんと歩こう 追い山笠コース探訪 6月1日開催(予定)

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください

平成24年

- 4月 第28回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師: 松本卓士氏 (RKB毎日放送報道部記者)
- 5月 第21回 はかたの町クリーン作戦 実施
- 6月 第11回 追山コース探訪 開催
第12回 楽文コンテスト 開催
- 10月 第22回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)
- 11月 第29回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師: 岩松 城氏 (毎日新聞西部本社編集局長)

平成25年

- 4月 第30回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師: 前田 敦氏 (西南学院大学法学部准教授)
- 5月 第23回 はかたの町クリーン作戦 実施
- 6月 第12回 追山コース探訪 開催
第13回 楽文コンテスト 開催
- 10月 第24回 はかたの町クリーン作戦 実施
- 11月 第31回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師: 松本 龍氏 (元環境大臣)

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakanokaze.jp
URL http://hakanokaze.jp

NPO博多の風の歩み

- 設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表: 大庭宗一
- NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長: 大庭宗一

NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
 - ・博多の風フォーラム開催
 - ・広報誌・HP発行
 - ・毎日新聞世論フォーラム公聴
 - ・作文コンクール(楽文コンテスト)実施
- 地域環境向上事業
 - ・博多の町親交
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
 - ・書籍出版
 - ・博多祇園山笠の振興
 - ・追山コース探訪開催
- 協力事業
 - ・各市民団体との情報交換及び支援



NPO博多の風フォーラム 「ふつうに生きる」

去る平成25年月11月16日、第31回NPO博多の風フォーラムが福岡市立博多小学校「表現の舞台」にて行われました。今回は、元環境大臣の松本龍さんにご登壇いただき、『ふつうに生きる』と題して、議員時代の話や現在思う事などについてお話しいただきました。後半には気心の知れた大庭理事長も加わり、昔話などを含め内容の濃い時間となりました。



松本 龍(まつもと りゅう)
元環境大臣
1951年5月17日生まれ(福岡市東区馬出)
中央大学法学部を卒業後、建設会社勤務を経て1990年衆議院議員初当選(以降7回連続当選)。衆議院の特別委員長・環境委員長・政治倫理審査会会長などを歴任。COP10(第10回生物多様性条約締結国会議)での議長採択や、東日本大震災に於いてその手腕を発揮。
趣味……音楽(ジャズ)、映画、読書

■全国津々浦々の日々

10年ほど前に1回、この博多の風でお話をさせて頂いていただきました。そういう意味では今日、懐かしい顔を拝見することができて、大変うれしく思っております。

私も実は山笠に出たかったんですがね。昔、親父に「山笠に出たいいばってん、どうしたらいい？」って聞いたら、「お前、友達の大庭宗一さんは土居流やろうが？同級生は大黒流やろうが？俺は毎晩中州で飲んでる。一番近いのは千代流やろう。どっから出るや、お前？」って言うてですね。結局お前は出るな、って言うことになって、山笠に出られませんでした。やつぱり法被を着た威勢の良い男のたちが女の人たちに支えられながら山笠をやっている姿というのが、本当にいいなあと思います。そういう意味ではここでこうやって講演をさせて頂いてるのを、とても楽しみにしております。

実は今日これから夜の7時まで鳥取県の琴浦という所

に行つて講演をしてきます。小さな田舎町ですが、おいらんやらおぼちゃん達が私の話を聞いてくれるということ。今年になってから鹿児島に行つたり長崎、高知、徳島などに行つたりして、何か山口百恵じゃないですけど、「日本のどこかに私を待っていてくれる人がいる」という感じが、皆さんの前で話をするのが本当に楽しく思っています。

今日は「ふつうに生きる」と題していますけれども、まあ、政治家の時の普通なのか今が普通なのかよく分かりませんが、ただ、「人間、特別なことはあまりない。普通にしつかり目の前にあることをこなしながら生きていくのが人間の生き方なんだなあ」ということをこの頃改めてつくづく思っております。そういう意味で「ふつうに生きる」ということが非常に当たり前ですけれど難しいと思うところがあります。

■「縁」の結び直し

大庭宗一さんとはもう45年の付き合いになりました。まあ男と男の付き合いは、それぞれが刺激しあって、それぞれが突つ張りあって、絆が結ばれるという縁が結ばれる。宗一さんと昔飲みながら言っていたんですけども、簡単に「袖すり合うのも多生の縁」と言いますが、縁を結ぶって言うのは一番難しいことなんです。出会いはたくさん些細なことからは始まりますけれども、縁を結ぶためにはそれぞれがしつかり相手を支えたり相手から学んでいったりして、初めて縁が結ばれる。そういう意味では簡単なようで一番難しいのが「縁」ということだと思えます。

私は50歳を過ぎてから。「もう一度、縁の結び直しをしよう」と思うようになりました。何気なく毎日付き合っている人、何気なく支えてくれる人達をもう一回見つめ直して、この人達ともう一回縁の結び直しをしていかんかなあ

■「永田町」を離れて

私は38歳の時に国会議員になりました。実は7回連続、23年間国会議員をしていくなかで、やつぱりどこかイビツになってきた自分というのにこの頃気づいてきました。「永田町のやり方」みたいなのがおかしい、離れてみたいなあ、あはちよつとおかやいてんだとか、自民党もちよつと不甲斐無いなあというふうにも思っていました。政治を見られるようになり

のすごく宝物になったのは、国会議員になるまでの十数年間です。それまで建設会社で働き、あるいはロータリークラブや中小企業経営者協会などでいろんな人達と話をし、悩み、酒を飲み、遊び、そして勉強しながらやってきました。ですから20歳そこそこで国会議員になりたいという人達が出て、自民党はもう人達はいるんですが、もうちよつと社会勉強をして国会議員にならなければいけません。市議員になって県議員になって国会議員になるといった、社会とちよつとかけ離れたところですが、自分も来た道が、今永田町にたくさんいる。そういう人達に言いたいのは、やはりしつかりいろんな人達の意見を聞いた方がいいんじゃないかなあ、政治を自分なりにやっていく事が一番大事なんだということ。

■生物多様性条約COP10の議長として

2010年に名古屋で行われたCOP10(生物多様性条約第10回締結国会議)では議長を務めました。この生物多様性条約というものはものすごく複雑でまとまりにくいものでした。安倍総理や菅総理は日本の首相として1億2千万人のトップでしたが、私は70億人の議長となつたわけなんです。更に言えば、植物や動物、森・海・川、これから生まれてくる子ども達に影響を与える大きな役割を担ったのです。

系が危機に瀕しています。南アフリカのある地方で風邪に良く効く植物があるという事をドイツの学者が発見しました。その植物を現地の貧しい人々が採取しドイツの製薬会社が買い取る。これが繰り返されることでやがて南アフリカからその植物がいなくなってしまう。こんな事が世界中で起こっています。このように各国の利害関係で生態系が破壊されていくのを無くすために一定の取り決めをしようというものが生物多様性条約の意義の一つです。しかし、利害関係の中で発展途上国と先進国の間で20年以上意見がま

とまらない状況が続いてきましたので、私はこのCOP10でなんとかまとめてやろうと意気込んで議長に臨みました。

COP10には国連加盟国数より一つ多い193カ国が参加しています。参加国の全ての希望をまとめあげるのには不可能だと分かっていたので、逆転の発想で各国の失望を集めていきました。人が悲しいことや辛いことを当たり前の言葉で解決していくことで不可能と言われた議論を最終的にまとめあげることが出来ました。最後にまとめた瞬間には世界中から集まった参加者が一斉に泣き出して握手したり抱き合ったりしました。私の人生の中で最も感動した瞬間の一つですね。

■壮絶を極めた震災直後

2011年3月11日、東日本大震災を迎えました。午後2時46分に地震が発生し、3時前にはもう危機管理センターというところに入つて、もう不眠不休でずっと防災担当大臣として指示をしました。千年に一度の震災であると言われる中、ライフラインは全てストップしているわけですから、とにかく一番最初に「携帯ラジコを1万個、東北に送れ」というのが私の最初の指示でした。そして次の日、夜明けの時間を調べさせて、自衛隊・消防・警察に海からずっと捜索活動を続けてくれと指示しました。

2年半経ちますから話をしますけれども、当時はもう戦争

■3度の依頼の末に就いた「復興大臣」

実は皆さんから、震災後に復興大臣になってくれと言われて最初は断つたんです。「私は『復興』は今考えていません。『応急復旧』……つまりガレキとか衛生面とか医療とか介護とかいったところを私はやらせてもらいます。その代わり復興は私はやりませんよ」と。

今だから話しますが、「復興大臣は自民党の谷垣さんか公明党の山口さんにやらせたらどうですか。私が絶対支えまさら」と私は皆さんに言いました。もうこれは拳党一致でやらなければこの仕事はできません。ですから自民党、あるいは公明党のトップに復興大臣になつていただいで、具体的な仕事は私達が見ますから拳党一致でやりましょうよと。一そんなふうにお伝えしたわけなんです。

2度目の依頼があり、それを何故断つたかという時、皆さんが近いうちに首相を辞め

■「発言」の真意

結局、復興大臣を6月に受けたんですけども、テレビの映像に映つたように岩手・宮城・福島に行つて復興大臣になったキックオフイベントに臨みました。で、正直に話しますと、岩手の知事には「知恵を出したら何でもします。知恵を出さなければ何にもしませんよ」と言いました。それなら「知恵を出さなければ何にもしませんよ」の部分だけが映像に映りました。

また、宮城県に行つて「コンセンサスを得てくれよ」と話をしました。宮城県の知事には前から何回も話しているから知っているんですけど、彼が言っていることが大変隔離してたんですね。知事はこの際だから漁港をこれまでの三分の一から五分の一に集約したいと言っていた。だからそれに対して漁民の人達はみんな納得してらるんですけど。漁民は知事の考えに対して全部反対でした。ですから私はコンセンサスを得なければ仕事はできませんよという話をしま



した。ですから「コンセンサスを得るよ」という話をしたんです。その時「あっ、ちょっと知事に言い過ぎたかな」と思って最後にマスコミの人に「この話は知事をちよつと傷つけたかもしれないからオフレコにしてください」と言ったら「オフレコにしてください」というところだけが映像に映されませんでした。

結果として「この大臣は何の上から目線」とかいうふうな言われまして、あれが一番堪えましたね。私は上から目線で人に言ったことは今まで一回も無いのに、何か威張ってるとかいうふうな言われて。私、19兆円もの皆さんの税金を背負って行ったんですよ。で、県知事と大臣は対等なんです。トップです。ですから何でも言い合いをしなきゃいけないという思いで復興は難しいという思いでちよつと言葉荒く言いましたけれど、あれは被災者には絶対言いません。市町村長にも言いません。知事はしつかりしてほしいから対等な立場で真剣勝負でお話をしました。ですから知事がちよつと遅れてきたことに対して私は「長幼の序があるから年上の人がいたらちゃんと丁寧に扱うのが世の中の姿だぞ」というふうに論じたんですけど、それがまた「知事より大臣のほうが偉いのか」というふうな言われちゃう。「長幼の序」というのは皆さんご存知の通り、年上の人を敬うということです。地位とか役職とかじゃないんです。まあ私の言葉が

足りない、少し荒かったというところがありますけれども、その頃が一番真剣になっていったというふうにご理解をいただきたいと思えます。

■これからも「ふつう」な視点で
その後、福岡に帰ってきた途端、倒れてしまいました。その時、岩手県の宮古市長と福岡県の相馬市長が二人でお見舞いに来てくれたんです。ところが「ふぐを食べさせてください」と言うんですね(笑)。3人で飯を食べたんですけど、私も私、私はその時入院してました。悔しくて悔しくて。みんなはひれ酒を飲んでるのに私は初めてお茶でふぐを食べました。あんなに切ない思いは初めてです(笑)。でもそうやって、震災以降今でも現地の市町村長の皆さんとはつながっています。

昨年の選挙で初めて苦杯を飲みましたけれども、実は政治家と言うのは不思議なもので選挙の勝敗というのはその日になつたら全く興味がないんです。支援していただいた方には不思議に聞こえるかもしれませんが、やらせたりも、やることもやったら当選しても落ちてもどうもないんです。自分がやっつたというふうな結果自分が負けたというふうにしなかつた。ですから松本龍は今落ち込んでいたりとか病気をしているとか、いろいろ言われるんですけど、いざいざ、ものすごく元気

です。散歩したり5月からは下手なゴルフもまた始めた。習い事をちよつとしてみたりして過ごしています。そしてこれからも、しっかりと皆さんと一緒に「ふつうの目線」で政治を見ていきたい、またいろんな出会いを大切にしていきたいなあと思っています。

報告

第13回 楽文コンテスト表彰式

第31回博多の風フォーラムと併せて、同日午前中に「第13回 楽文コンテスト」の表彰式が執り行われました。

楽文コンテストには「みんなが大好きなこと」をテーマに福岡市内外の小中学校から約千四百点の作品が集まり、その中から計25作品が受賞作として選ばれました。表彰式では5つの受賞作品の受賞者本人による朗読も行われ、受賞者の皆さんに対し温かな拍手が送られました。

(大浦 晴彦)



要職を歴任されてきた松本龍さんが語る「ふつう」の大切さ。「ふつう」の積み重ねで社会が動いているんだなあと感じた講演でした。「ふつう」をより良くしていく為に自分出来る事を考え、行動していきたいと思えます。

(大浦 晴彦)

告知

第14回 楽文コンテスト開催決定

今年も、楽文コンテストを開催します。詳しい応募期間などは、追ってチラシなどで告知させていただきます。多数の応募をよろしく願います。

告知

第32回 NPO博多の風フォーラム 開催のご案内

■開催日時:平成26年5月10日(土) 開場:13:30/開演:14:00 ■開催場所:博多小学校「表現の舞台」

講演 『明日への一言。「明日への為に少しだけ」』 講師 大庭 宗一氏 (NPO博多の風 理事長)

※ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、ご参加ください。多数の方のご参加をお待ちしています。

大庭宗一の大人気エッセイ

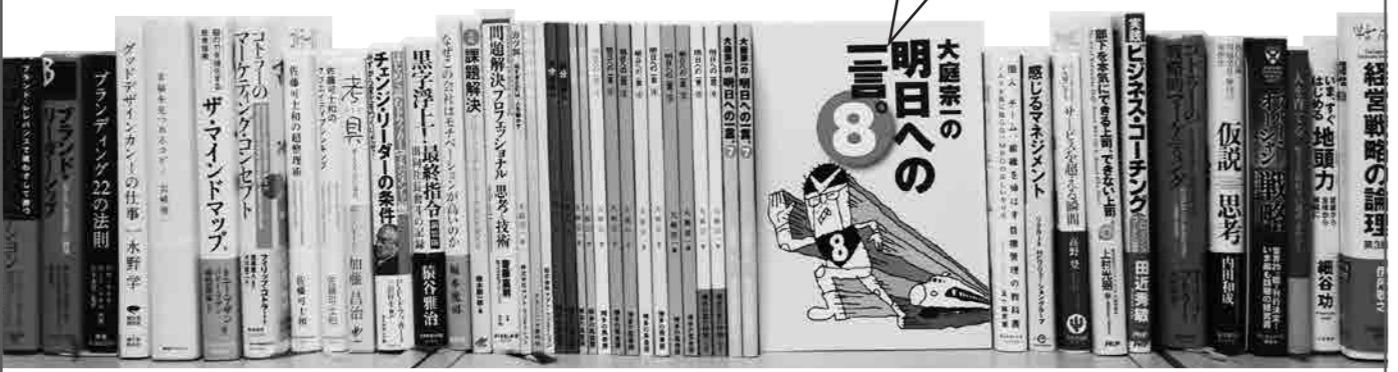
シリーズ第8弾

「明日への一言。」8

人気シリーズ好評発売中
熱いメッセージがいっぱい
詰まったエッセイ集です

定価600円(税込み)

職場や仲間の集う場所に
大将の本を置いてみませんか?
熱いメッセージでやる気を
引き出し、仕事の効率が上がるかも!



◆「明日への一言。」①～⑦



◆「自分頑張れ。」①～③



NPO博多の風のホームページで
購入申し込みができます。

<http://hakatanokaze.jp/syuppan/syuppan07.html>

風人來人(事業紹介) 広報企画事業

■活動は大きく2つ
平成14年3月よりホームページを開設し、活動を幅広く告知。同年10月からは広報誌「風人」を発行し、会員の皆様へ年2回のフォーラム内容を中心に、活動内容をお知らせしています。今回は、年3回作成する広報誌についてその舞台裏をご紹介します。いただきます。

■原稿は五千字？
広報誌を作るのも現在は博多の風の幹事達で協力しながら作っています。フォーラムや楽文コンテスト発表会などの時は写真と映像で記録に残します。コース探訪の際にはカメラ片手にグループ間を移動しながら、いろんな写真を撮影しています。その後、映像などを見ながら原稿を作成します。フォーラムの原稿は

・原稿作成



多いときで五千字を超えます。四百字詰め原稿用紙だと、十枚以上です。小学校の頃からしたら全く考えられない領域です。講師の方の話と合せて、それを聞いていきます。

■デザイン印刷
原稿と写真をデータで送って別の担当がレイアウトをしています。本業ではないですが、デザイナーの見よう見まねで作成します。原稿ができたなら、次は印刷にまわします。広報事業には印刷会社で働いている幹事がいるので、大変心強いです。色々と調整しながら印刷してもらっています。広報誌を刷る用紙の色は季節感や内容などを踏まえながら毎回選定しています。

・レイアウト作業



■そして賛助会員の皆様へ
印刷まで出来上がったなら、幹事や協力者が数人集まり、手作業で、発送分を送り状と一緒に封入していきます。完了したらまとめて発送です。以前は封筒に切手を貼って送付していましたが、色々やり方を試しています。手渡し分は幹事から会員の皆様へお渡ししています。こうやって皆様の手元に年3回の広報誌が届いています。今後ともよろしくお願います。

~NPO博多の風 ホームページ~

NPO博多の風の最新情報はホームページに掲載。内容は随時更新中です。設立趣意書や定款などもまとめております。



URL <http://hakatanokaze.jp>

賛助会員募集中

我々「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。

お問合せ
「NPO博多の風」広報企画(担当:山口)
E-mail info@hakatanokaze.jp
FAX 092-263-7188



平成14年10月の創刊号から今号で36号を数えました

担当理事紹介

広報企画事業

山口 覚弘
(土居流 川口町)



■夢をもって活動を続ける
早いもので博多の風に係わり15年目になります。社会人3年目の頃、諸先輩の誘いのもと始めた広報企画事業。当初はどのようなふうに行うのか試行錯誤しながら進め、改善を繰り返しながら現在の形にすることが出来たことが嬉しく思います。

ただ、ここ数年同じような形態のまま時間が過ぎているような気もして、違和感を覚えます。時代のスタイルは刻々と変化し、進化していると思います。広報誌発行、ホームページの更新を主の活動として位置づけている広報企画事業も、年々改善・進化しなければ、結果衰退するかと考えられます。

告知

第13回 探訪 博多祇園山笠追山コース

平成26年6月1日(日)開催(予定)

恒例の「追山コース探訪」が今年も6月に開催されます。当番法被に身を包んだ「おもしろい」達と追山コースを廻りませんか？山笠の歴史や昇手ならではの迫力ある解説など、こだわりの話もとびだしますよ！

募集案内は、5月初旬に新聞紙上、ホームページで告知させていただきます。多くの方のご参加をお待ちしています。



第12回の模様(平成25年6月)

報告

平成二十六年年度総会

平成26年2月15日(土)開催

各担当理事および幹事の出席のもと、今年度の総会を実施しました。「平成25年度事業報告、決算、監査報告」「平成26年度事業計画、予算審議」などについて審議を行い、承認されました。その後、大庭宗一理事長の挨拶では「皆さんのおかげで、健全に運営できており、ありがたいことです。」と感謝の言葉を述べられました。また、今後の活動については「今までとよりくんできたクリーン作戦は、それぞれ町内でしっかりとやってもらっているようなので、その活動を継続していくこととしていきたい。他の活動もきつちりやって

もらっているので、今後も無理せず、やれる範囲で運営していきたいです。今後自分たちで運営しやすいようにしていきたいので、協力をお願いしたい。また、みんなで運営していることも自覚しておいてほしい。」とお話がありました。(上野 徹)



- 平成26年度 体制一覧
- ◎ 理事長 大庭 宗一
 - ◎ 副理事長 因幡 敏幸
 - ◎ 理事 平井 彰
 - ◎ 理事 大庭 信雄
 - ◎ 理事 松本 昭久
 - ◎ 理事 野田 輝幸
 - ◎ 理事 野中 雅治
 - ◎ 理事 村岡 昌哉
 - ◎ 理事 中川原 謙二
 - ◎ 理事 山口 覚弘
 - ◎ 理事 金子 俊明
 - ◎ 理事 板谷 益男
 - ◎ 理事 後郷 光信
 - ◎ 理事 太田 勇之助
 - ◎ 理事 福田 一男
 - ◎ 理事 笠 信一
- ◎ 顧問
詳しい担当はホームページに掲載しています。

編集後記

春の訪れを実感し始めた3月末、各地で桜が咲き始めました。毎年、同じように咲いて人の目を惹きつけてくれる桜ですが、一つ一つの花を見ると去年と同じ花は一つとしてなく、今年の花をそれぞれ咲かせていることに気づきます。

そんな花を見ていて、「不易流行」という言葉を思い出しました。もとは俳句から来た言葉ですが、時を越えて変わらない普遍的な真理を、「流行」とは、時代や環境の変化によって革新されていく事をさしています。「いつまでも変化しない本質的なものの中にも新しく変化を重ねていく」という意味と、「常に新しい変化を重ねていくことこそが、変わらねていくことこそが、変わらねていくことの本質である」という意味もあるそうです。

先人達から受け継いだものを、そのまま次代に引き継ぐのではなく、今の時代に合せ、また未来に向かって自分達で変わり続けることが、伝統を守るといふ事なのだろうと改めて感じました。(中山 肇)